

## 県立大網白里特別支援学校 の実践について

### 協議の記録

Q1：広い東上総16市町村を網羅する中で、個人情報配慮した上での情報を共有するためのスピーディーなシステムを作る必要があるとのことですが、何か具体的なイメージはあるか。

A1：関係する方々と検討はしていないので、本校のみの考えになるが、東上総教育事務所の専門家チーム会議のネットワークを活用して、特別支援アドバイザーや特別支援学校のコーディネーターが知り得た情報を、専門家チームとして素早く情報共有できると良いと考える。それにより、情報を得る段階で小中学校の先生方などに伝えることができれば、「困っている子供がいることは知っているけど、アプローチができない。」という状況が減っていくと思われる。東上総地区の特別支援教育を担うチームとして、それぞれの得た情報をより有効な支援ができるところに繋ぐ形を作っていけたらと思っている。

Q2：ニーズ調査の結果の中で、本人としては特に困っていない状況の児童生徒に対して、今後予想される困難に対する必要な支援方法をどのように伝えていくのか。

A2：本人としては特に困っていないという児童生徒に対しては、直接アプローチができない。よって、そのような子供たちがどのような困難さを抱えながら学習しているのかを、地域の先生方に丁寧に伝えていきたいと考える。伝えていく場としては、特別支援教育の担当者だけでなく、各地区の校長会、教頭会、教務主任会、養護教諭部会、各教科の部会等で情報提供させていただきたいと考える。新年度の会議に間に合うように、教育事務所に相談しながら計画しているところである。

### 室長の講評

多様な教育的ニーズに対応するために、4月から「通級による指導」をスタートし、ここまで教室等の整備を含め、様々な御苦勞があったことと思う。この場を借りて感謝申し上げる。

「第2次千葉県特別支援教育推進基本計画」に基づき、連続性のある「多様な学びの場」を充実させ、県内のどこにいても障害に応じた専門性の高い教育を受けられるようにするために、総合的な教育機能を有する特別支援学校を位置づけ、これから整備に取り組んでいくところである。そのために必要な知見を得るために、大網白里特別支援学校にこれまで研究に取り組んでいただいた。

課題の1番に挙げていただいた「情報を共有するためのシステムづくり」については、さらに研究を深めていただき、ぜひ個人情報に配慮したスピーディーな情報共有ができるシステムづくりを構築していただきたい。

今後、東上総教育事務所管内における総合的な教育機能を有する特別支援学校として、さらに地域の理解を図り、子供たちの教育の充実に取り組むとともに、これまで得た知見、これから深めていく内容について、ぜひ県内に周知をしていただきたいと思っているので、支援部をはじめとした大網白里特別支援学校の新たな一歩を期待する。